

ジャワ島プリアンガン地方のコーヒー義務供出制度と住民——一八二〇年代末の人口統計から——

大橋 厚子

コーヒー義務供出制度に關しては、これまで在地の支配關係の溫存強化や夫役勞働の使用といった、現地社會の變化を抑制する側面が注目されてきた。しかしコーヒー生産と輸送の組織形態に着目するならば、この制度は一八世紀後半から一八二〇年代にかけて改變され、影響は住民の生活にまで及んだ。コーヒー栽培地區の限定による生産の集中管理が實施される一方で、輸送が營利を目的とする業者や住民の手に委ねられたのである。

この影響を一八二〇年代末の統計を利用して概観すると、オランダ植民地政廳が一九世紀初頭に整備した行政地區である「郡」は、邊境に設置されたものを除き、次のいずれかの特徴を備えていた。一、山裾の人口稠密な地域。水田地帯であるが餘剰は少なく、住民は山麓の農園でコーヒー栽培に従事する。二、コーヒー輸送の據點。男子の人口が多いがコーヒー・米とも生産量は少ない。三、盆地底部の水田地帯。コーヒー生産をほとんど行わず、一と二へ米を供給する餘力を持つ。

このような「郡」の間での機能の分化は一九世紀初頭以來の政廳のコーヒー政策と符合し、これが定着したことを示す。ただし政廳は、政策を權力で強制することは少なく、常に現地社會の動向を巧みに利用してきたので、政策の定着の實態を明らかにするために

は現地社會の諸階層の動向の把握が不可欠となる。

イラン立憲革命と地域社會
——ギラーン州アンジォマンを中心に——

黒田 卓

アンジォマンは、イラン立憲革命期（一九〇五—一九一一年）、とくに第一次立憲制期（一九〇六—一九〇八年）には、獨自の政治目標を追求したり、特定の階層の利害を代辯する政治結社としての性格を強めた。首都および地方都市で急増するアンジォマンに對して、新たに開設された國民議會は、一九〇七年五月六日公布の州アンジォマン法、同年一〇月制定の憲法補則において、アンジォマンを「公的」なものと「非公的」なものに二大別し、前者に地方行政の一端を擔う役割を付與した。つまり、「公的」アンジォマンを、國王專制體制の地方での象徴的存在たる知事權力に對抗する勢力として育成することを意圖したのである。

報告者はかつてカスピ海南西岸に位置するギラーン州を事例に、このような州アンジォマンの結成過程や人的構成を考察したことがあるが、その際州アンジォマン自體の史料を充分に利用することができなかった。そこで今回の報告では、その缺を補う意味で、州アンジォマンの發行した二種の新聞、*Arjomand-e Melli-ye Velayati-ye Gilan*（一九〇七年八月三十一日—同年九月三〇日まで發行）と *Gilan*（一九〇八年一月二日—同年六月三日）を主な素